

邑知埴地溝帯、南部におけるオオヒカゲの分布について

松井正人・嶋根井海郎

石川県のおオヒカゲについては、百万石蝶談会のメンバーにより昨年(1980)かなりの報告がなされた。

筆者らは、昨年に引き続き、1981年能登産おオヒカゲについて調査を実施し、いくらかの新産地を発見することができた。以下にその概要を報告する。調査したのは、1981年5月16日(土)、1日のみである。

今回の調査目標は、能登半島基部つまり邑知埴地溝帯の南側に焦点をいぼり、昨年調査の際の空白部分をうめることにした。

調査地は、鹿島町正部谷・同町杉谷・鹿島町石動山・同町不動滝付近・同町谷内・羽咋市四柳・志雄町杉野屋・同町聖川へ針山間・同町針山・同町平床・高松町箕内(大海川周辺)・津幡町興津峠・金沢市四王井・同松根・同曲手原・同堀切の16箇所及び、このうちおオヒカゲ幼虫の確認できたのは、次の6箇所であった。

1. 鹿島郡鹿島町石動山中腹

二宮より上部標高400m地点の林道脇の杉林の林床のスゲSPより、約20〜30頭前後の体長1.8cm位の3令幼虫を自撃確認した。このうち5頭の幼虫を採集し、嶋根井が飼育も行った。(6月24日1令羽化、6月25日1令羽化、6月26日1令2令羽化。)

2. 鹿島郡鹿島町谷内

田畑と山林の接点に自生するハンノキの雑性林床(4〜5m四方程度)内にスゲが密生しており、このスゲより松井が5頭、嶋根井が3頭の3令幼虫を採集した。(6月21日1令1令羽化、6月22日1令羽化)

なお、この調査地点のハンノキよりミドリシジミ幼虫を、6頭(令数不明)自撃確認した。その他、流に吸蜜中のジヤコウアゲハ2令も自撃した。

3. 羽咋市旧柳・旧柳神社付近

ここでの調査地は前項とよく似た地形で、湿性林床下のスゲSPより、3頭のオオヒカゲ幼虫を採幼し、松井が飼育を行なった。

4. 羽咋郡志雄町杉野屋

杉野屋へ右瀬間には、灌漑用の大小貯水池が何ヶ所も見られ、ちょっとした水郷のような風情があるが、その池と山林の接する小さな休耕田脇のスゲSPに静止中の3頭のオオヒカゲ幼虫を確認した。ここでは採幼はしなかった。

5. 羽咋郡志雄町平床

志雄町の針山へ瀬老坂へ平床へ南吉田と相見川沿いに山越えをして、押木町への調査を進めた際、平床地内の休耕水田内のスゲSPより、5頭の本種幼虫を自撃確認した。ここでも幼虫採集はしなかった。

6. 河北郡津幡町興津

津幡町興津峠付近の畑の草付内のスゲSPを摂食中の本種幼虫を2頭自撃確認した。

今回の調査結果より、越前中津川市南側においては鹿島町・羽咋市・志雄町・津幡町にてオオヒカゲを産することが判明した。市町村境界線にこだわる訳ではないが、高松町・押木町・竿ノ気町・七尾町においては、まだオオヒカゲの発見も見ない。

なお、調査地における本種の食草となっているスゲ類についてであるが、主要地にてスゲを採集し、某氏に飼育を依頼中である。

富山県称名山の記録若干

松井 正人

1. 1981年8月11日、晴、称名山付近の右岸でクモマバニヒカゲ1頭を採集。標高は約1300mと割に低い。
2. 上記地点のブナ林林床にミヤマカンアオイを発見。
3. 雑穀山の入口付近右岸にある岩壁のすきまに、ミヤマカンアオイらしきものを発見、ヒメカンアオイかもしれない。

The best butterfly-season was over. しかし蝶屋にとって、season offはない。僕にとって秋は軟化展翅のseasonだ。御存じの通り、軟化展翅には数種類の方法があるが、最もポピュラーなものは「蒸留器にて乾燥標本に水分を浸透させ、軟かくなるのを待ち展翅する。」という方法だ。しかしこの方法では強固な筋を持つ標本に対して効果を現わさない場合が多く、このようにときは適当な段階まで軟化させた標本に、熱湯を注射したり、針で筋を部分的に破壊し、速乾性接着剤を浸透させたりする方法が用いられる。

ところで今回述べる方法は数年前より耳にする、「特定の果汁成分に含まれるタンパク質分解酵素を利用した軟化展翅」でこの方法についての紹介はすでに TSU-I-30, かたくり (Vol.10) などに掲載されている。酵素を用いる方法はかなり古くから知られているが、それは薬品として市販されている酵素を用い、また保存や扱いの面で煩雑であるということもあって、一般化されてはいなかったようだ。

しかしながら、「特定の果汁成分に含まれる酵素」なり、入手しやすく、費用もかからないということもあって、僕達にとっては十分魅力的である。ここに言う「特定の果汁」とは、代表的なものがイチヂクであり、その酵素とはフィシンである。まだ試行の段階ではあるが以下に僕の方法を簡単に記す。

- ① イチヂクの葉柄、果実より乳液状の白濁汁を得る。果実がない場合は、葉柄を用いるが、白濁汁の量が少ないため、細く刻んで、少量の水にひたし、拡散させるやり方で、一応成功している。
- ② 水で稀釈する。x1~x40で試みたが、x5~x20でうまくいっている。しかし、標本自体に差があるなどの理由で、どの倍率が一番効果的か今のところわからない。x20を上回る倍率では効果が減少するようだ。なお、繊維成分はよくこしておかないと注射針のめづまりの原因となる。
- ③ 以上のようにして作った水溶液を、適当に湿らせた標本胸部に注射する。2ccの注射器と皮化針1/3号あれば大体の標本にまに合うが、注射するという方法を用いなければならぬ以上、針の太さがあるので、標本の大きさに限界があり、胸部の細い標本では難しくなる。しかし、もともと胸部の細い標本は、ほとんどの場合、筋も軟弱であるため前述したポピュラーな軟化法で十分である。したがって本当に難しいのは、ほとんど胸部

が太く筋も強固な個体が採集、乾燥の段階で必要以上に圧迫されたため細くなった標本である。なお、注入のとき、標本各部より漏出した液は十分ぬぐい去らないと、汚濁の原因となるのは、御推察のとおりである。

- ④ 再び浸潤器に戻し、硬殻部キタン質が酵素の作用によって溶解軟化するのを待つ。12時間～24時間ぐらいでよいと思う。

このようにして軟化した標本はうまくいった場合、あたかも、腐敗標本のように軟くなり、展翅が容易になるばかりでなく、展翅後の形くずれが全くない。なお、いずれの軟化法についても言えることだが、この方法ではとくに、採取後、経長時間は短ければ短いほどよく、長い年月を経た標本は難しくなる。

僕は約30年前の標本までしか軟化したことがないので、よくわからないが、長い年月に渡って放置されたため風化(酸化)?してしまった標本は胸部腹部に空隙が多数できていることが多く、注入した酵素溶液が、胸部のみに届まらず腹部に多く浸潤し、後翅の汚濁の原因となる懸念があるからである。

次に保存であるが、僕はフィルムケースにて冷凍させ、3ヶ月後に解凍し、同じ方法で軟化させたが、一応の効果があるようだ。

最後に、果実の種類であるが、イチヂクに限らず、同様のまたはより大きな効果を持つ酵素を含むものが手近に見つかる可能性は大きく、店頭で売れ残った果実などを用いて、試行してみてもはどうだろうか。パパイヤやマンゴなど……。今後の課題である。

富山・岐阜県境 宮川にてヒサマツミドリを採集

松田 俊郎・嵯峨井 海那

3年連続大豊作だった富山県産ヒサマツミドリシジミを今年もと、柳の下のだじょう二匹は、1981年9月15日、富山県婦負郡細入村にて早々と採卵を行った。

しかしながら、ウラジロガシの芽の発育の悪さ、採卵時期早尚などにより、2人で30卵程度しか採卵できなかったが、5～6頭のヒサマツミドリ雌の飛翔を自撃することができた。

過去何回か、同地にて本種の成虫調査を実施しているが、ただの一度も自撃できず、(吉村氏や富山の犬野豊氏も成虫調査をしている)時期外れとも思えるこの時期に、多数の成虫飛翔(但し雌ばかり)を見ようとは思いつかなかったが、さいわい、松田・嵯峨井共々つなぎざおを携帯していたので、各々1雌づつ採集することができた。2頭とも、比較的新鮮であり、採卵用に持ち帰ったが、残念な

がり産卵せずに1週間後死した。

鹿児島昆虫同好会の神園香氏の御教示によれば、南九州におけるヒサマツミドリの産卵期は、9月～10月にかけてであるとのこと、当地においても、これからが産卵最盛期に入るのかも知れない？

余談であるが、目ぼしいウラジロガシを物色中、宮川の河原へ降りてみたところ、多数のナンテンハギを発見した。宮川に添ってアサマシジミが産するか否かは、勿論、論外で今後の調査によって判明するであろう。

ギフチョウの採集記録例

松田 俊智

1981年4月、次の地域でギフチョウを採集しているので記録しておく。いずれも、筆者採集・保管のものである。

- | | | |
|---------------|----------|-----|
| 1. 石川郡鶴来町中島 | 1981-IV- | 5♂♂ |
| 2. 能美郡辰ノ口町和佐谷 | 1981-TV- | 2♂♂ |

石川県産オオヒカゲ追加産地

嵯峨井 海部

県産オオヒカゲについては、報N219にて、嵯峨井・諸道、松井により1980年の調査結果を報告した。その後、県内数箇所にて採幼を試みいくつかの新知見が得られたが、今回は、金沢市上平のものを記録しておく。

<金沢市上平>

1981年5月9日、スゲSpより20頭前後の3令幼虫を同地にて発見確認した。確認地点は県道中尾～津田(津藩)間の上平町の神社の一角で2～3m四方のごく小さな範囲のスゲに発生していた。ここは、金沢市での唯一の記録地である、中尾より2km程しか離れていない地帯である。6月1日、筆者は再び同地を訪ずれ、終令幼虫を3頭、採集し自宅で飼育した結果、3♀が羽化した。

ポプラよりコムラサキの幼虫を採集

野中 勝

1981年10月下旬、ムラサギ>タバの産卵用に、金沢市三口新町よりとってきたポプラ(*populus nigra*)にコムラサキの2令と思われる幼虫が付いているのを発見した。以後、ポプラを与えて飼育したところ、順調に有ち一回脱皮後、11月上旬に体色が黒化して越冬に入った。図に幼虫の食痕を示す。

石川県内では *Salix* 属以外からの記録は無かったと思われる。藤田(1981)によれば、佐賀県では、ポプラからの記録が存在するようである。

藤田知夫(1981) 改訂増補 日本産蝶類大図鑑
講談社

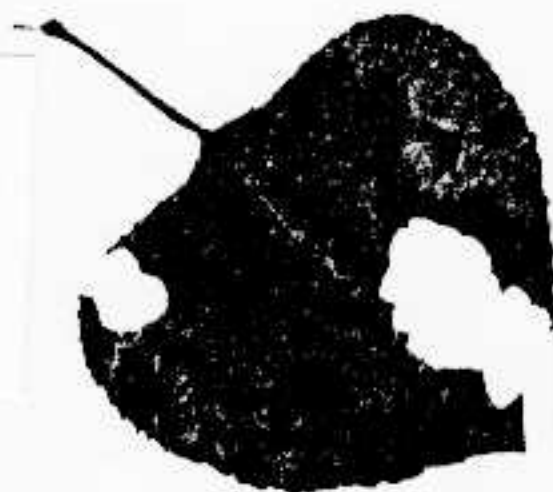


図. ポプラに残された
コムラサキの幼虫の食痕

今は昔の物語—武蔵野集情—

井沢 国雄

平山標本探訪記なる一文が、先日嵯峨井氏から借りた月刊むし81年9月号に今井彰なる方が書いておられたのを読んで、私が15才の頃、吉祥寺において武蔵野や高尾山に蝶を取りに行った事が思い出され、なつかしく思いました。平山博物館にも数度出入りしたのでその時の事を書いてみます。

昭和33年に昆虫博物館なる所に行ったのはぐうぜん通りがかりに見つけ持前のずうずうれさで博物館のうれろに住まわれていた、平山夫人をたづねたのですが、上品な、髪に白いもののまじった、着物の長くにあう60才ぐらいのおばさんでした。加増室には、長い口ばれをもったみっを吸う鳥(ハチドリか? 鳥の名前を忘れた)の標本のカゴがあり、気軽に話をして下さった。

博物館はもう閉館している事、標本は住いの方に上げるとの事など、その後博物館を見せいただいたのですが、沢山の標本がうす暗い中で静かにナフタリンの臭いをただよわせていたのが、標本の美しさよりさみしさがためいきとともに胸にジーンときた事が思い出されます。

今、標本が何ヶ所に別れながらも保存されていた事を知りうれしく思う半面、川中學生やアマチュアの人達の武蔵野や日本産の蝶や甲虫達は怎么样了のでしょうね。展翅のじょうずに出来ていない武蔵野のゼフィルスやオオムラサキなど目にうかびます。丁度、

テレビで武蔵野市の人が数人百万円也で富山にふるさとを買って、市でマタタビ酒なんが富山の山奥から仕入れたリしてふるさと運動なる番組が目の前でちらっしています。

私が少年の頃のふるさと武蔵野はどこに行っただけでしょうね……。

さて、標本引越の時は、私の先輩の山口日出夫氏と20才過ぎの平山博物館の関係の人とろんで何度も標本箱を運んだのですが、どじな私は小さなミゾに足をおとして、あやうく標本をこわすところでしたが幸いくつと足がドロ　まみれになっただけで事なきをえました。

私の指紋のついた標本箱は今どこにいますのしょうか。ワシントン博物館、国立博物館、兵庫果は佐用郡南光町の昆虫館か、はた又、別な所に行ってるのしょうか。引越しの昼にいただいた天井の味と帰りにおみやげの台糖産のキシタアゲハ等の入った桐の標本箱は、今はなく、少年の目に見た平山標本の今は昔の物語。武蔵野の自然と平山標本のふるさとをさがして下さい。

ぜつむだ話・(2)採卵難易度

野中 勝

石川県に於けるぜつ採卵の難易度を考えてみた。以下に述べるのは主に僕自身の県内に於ける採卵経験に基づいたランクづけであり、当然意見を異にする人もいるだろうし、採卵技術の進歩、開発により将来変更される可能性も大きいことをわかっておく。

Aランク: ヲウセンアカ、ヒサアツミドリ、キリシマミドリ、ウラジロミドリ、クロミドリ、ハヤシミドリ、ヒロオビミドリ、ムモンアカ。

石川県内で1卵でも以上の種の卵を採った人は表彰に値する。採卵記録はもとより、ムモンアカ以外は成虫の記録もない。ランク落ちの可能性の高そうなのはヒサアツミドリで、何度が調査も行なわれているが発見に致ってない。また、能登の海岸にはかなりカシワがあるが、ウラジロ、ハヤシは殆んど調査されていない。

Bランク: ウラナミアカ、オナガ、ウスイロオナガ、

これらの卵を1日に10卵以上採れたら大いに自慢して良い。僕が何度が挑戦しているのはウスイロオナガで、その経験では1日つぶす気でミズナラの樹皮の割れ目を見て回り、一卵鬼でも採れれ

ば長い方である。一番ランク落ちの可能性が高いのはオナガで、白山周辺の沢筋で採卵を試みるべきである。

Cランク: アカ、ウラクロ、フジミドリ、オオミドリ、エゾミドリ

これらをコンスタントに採れる人は採卵の天才で、そんな人がいたら是非弟子入りしたい。特にウラクロなどは成虫が多い割には卵が採れない。食樹が多すぎるのも一因と思われるが、白山のフジについても同様の事が言えそうである。また、エゾも採ろうと思っ採れる種ではなくBランクでも長いのだが、アイノ、ジョウザンに混ってミズナラ頂芽から得られることがあるので一ツランクを下げた。

Dランク: ウラキン、ミズイロオナガ、ウラミスジ、メスアカミドリ

ウラキン、メスアカは食樹がミズナラほど多くないので、ミズイロ、ウラミスジはミズナラから採卵される頻度が比較的低いので、次のグループより一ツだけランクを上にした。

Eランク: ウラゴマダラ、ミドリ、アイノミドリ、ジョウザンミドリ

一昔前までの珍品ウラゴマダラも、金沢周辺のイボタの場所がだいたい判明してしまって今や最も数の採り易いド普通種。この中では、アイノが一番数を採りにくい。ミズナラの頂芽というホピュラーさと、成虫の美しさ故の人気で各地に記録は多い。

以上のうち、ウスイロ、ウラクロ、オオ、エゾ、ウラミスジ等は、成虫の密度から考えても探すポイントの改善で、かなりランクを落すことができると思う。採卵法を解説した本なども多いが、野外で試行錯誤により尤川鼻に適した方法を見出すのがオーだろう。我と思わん人の挑戦を期待したい。そして分かったら僕に教えてチョーダイ!

TOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTONDA

百石石蝶談会は、発足以来3年半を経過した。激動の時期もあり、いろいろ思いをめぐらしたが、会員諸兄のたぐひ御努力により今日の発展を見たと思われる。3年半の間に会員の流動も激しく、一度会員名鑑を作成しおいてくれという要望があったので、第25号発行という記念すべきこの際に載せることとした。大いに利用して下さい。TONDATONDATONDATOBUYAPPARITONDA

氏 名	住 所	電 話 番 号
井沢 国雄	長野県	
井村 正行	金沢市	
岩下 泰子	金沢市	
金子 二久	"	
金平 永二	"	
嵯峨井 淳郎	"	
白水 隆	福岡市	
高羽 正治	金沢市	
竹谷 宏二	松任市	
野中 勝	金沢市	
松井 正人	"	
松田 俊郎	石川県	
水野 透	富山県	
八木橋 英蔵	青森市	
諸道 秀人	滋賀県	
吉村 久貴	金沢市	
吉岡 泉	松島市 金沢市	

《例会の記録》

1981-12-19(土)、本年最後の例会を山崎市公民館にて開催。暮の爲か、出席率が悪く出席したのは、井村・竹谷・野中・嵯峨井の4名だった。雪が無いので採卵がたやすい話、来年の予定、アサマツミの集号はどうだったか、などボソボソと話をした。

《会員の動き・しゃべの動き》

今回はスペースがあまりないので多くは書けない。

◆9月26日(土)、野中・松井・嵯峨井の探卵族は、はたまた白山市瀬太方面へ。釈迦道は、切断されている為、別当出合へ市瀬間にてスクリーンによる灯火採集。霧や小雨の中、2桁の4サキンバが来襲。月刊あしにでも報告したいくらいだ。

◆10月11日(日)、松井・野中・嵯峨井(先発)と松田(後発)の4人は、ヒサマツミドリ調査の為、大杉谷方面へ。何にも出ず。ついてないことに、サグザツの中身(ヤツヤノコギリ等)や見布(数万円入り)を落してガックリ返りました。

◆11月1日(日)、野中氏、白坂山へ。整徒岳へ。キンキマザクラより、メスアカミドリの新・レコードを記録した。

同日、松田・嵯峨井は、医王山へ。ウラゴマダラ、アイム、ジョウザン等を採卵した。

◆11月3日(火)、野中・松田・嵯峨井の3人組は、田代山へ。金岳へ。獅子吼し高原をうろかった。ウラゴマダラ300卵。タイセン、ジョウザン等を少々採った。雨の中、ゴコロサン。

— 嵯峨井 記 —

目

次

豊知渚地帯・南部におけるオオヒカゲの分布について	松井 正人	1
富山県称名の記録若干	松井 正人	2
軟化展翅についてちょっと……	金平 永二	3
富山・岐阜県境宮川にてヒサマツミドリを採集	松田 俊郎	4
ギフチョウの採集記録例	松田 俊郎	5
石川県産オオヒカゲ追加産地	嵯峨井 海郎	5
ポナラよりコムラサキの幼虫を採集	野中 勝	6
今は昔の物語 - 武蔵野集情 -	井沢 国雄	6
ゼフあだ話 (2) 採卵難易度	野中 勝	7
百万石蝶談会・会員名簿		9
例会の記録・会員の動き・しゃべの動き		10

刊

№ 25

1982年 1月 15日(金)

発行：金沢市三日月街4-9-34・松井正人方

編集校正：

百万石蝶談会
嵯峨井 海郎